



望月実

公認会計士

■プロフィール

もちづき・みのる//1972年名古屋市生まれ。立教大学卒業後、大手監査法人に入社。監査、株式公開業務、会計コンサルティング等を担当。2002年に独立し、望月公認会計士事務所を設立。著書に『〈数字がダメな人用〉会計のトリセツ [取扱説明書]』がある。

今号の
一冊

『会計を使って経済ニュースの謎を解く』

会計を知れば数字の裏側にある ビジネスの状況が見えてくる

「日産のV字回復では、売上は100億円しか増えていないのになぜ利益が1兆円増えたの？」
「ライブドアの粉飾の仕組みってどうなっているの？」。経済ニュースを見ていて浮かんでくるこうした素朴な疑問に、会計の観点から分かりやすく答えてくれるのが、今回紹介する『会計を使って経済ニュースの謎を解く』（日本実業出版社）だ。

● 著者の望月実氏に、本書の特徴やそこに込めた思い等を伺った。

——まず、本書を執筆された動機からお聞かせください。

望月 私は会計士の仕事をしてい

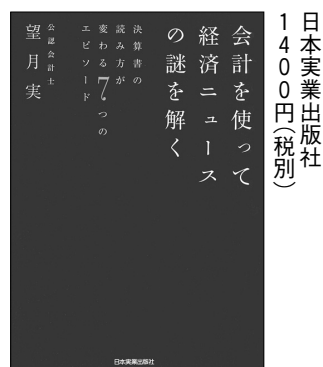
るので、そうすると、例えば日産のV字回復のような経済ニュースについて、クライアントや友人から、「あれはどうなっているの」といった質問をよく受けるんです。そうした疑問というのは、会計の知識があれば簡単に理解できるものがほとんどなんですが、会計といっても一般の方にはなじみが薄いですからね。そこで、会計の基本的な考え方や知識を学んでもらい、そのことで様々な経済ニュースを理解できるような本があればと思ったんです。

もちろん、本屋さんに行くと分かりやすい会計の入門書はたくさん並んでいます。ただ、それはあ

くまで会計の本で、実際の経済ニュースに応用しようと思うと、そこには大きな壁があるんですね。

また反対に、実際の経済ニュースを題材にすれば、会計についてはないかということも、本書を執筆する思いとしてありました。そこで本書では、関心の高い経済ニュースを題材に会計を解説することで、会計の全体像を簡単に理解できるように工夫しています。実際の会社の財務諸表について、これだけシンプルに解説した本はおそらく他にないと思います。

——本書の中で望月さんは、会計をマスターすると決算書の数字の



裏側が見えてくると書かれています。これはどういうことですか。
望月 例えば、日産のV字回復では、「利益が1兆円増えた」ということが大きく取り上げられました。会計についてあまりご存じない方は、この数字に引っぱられて単に「日産がとても好調」と考えてしまいます。ですが、この数字にはあまり意味がないんです。
利益が1兆円増えた主な理由は、前年のリストラで大きな特別損失を計上したことです。この年の日産の営業利益は前年比2000億円の増加で、実際に日産が好調かどうかを知るには、こちちの数字のほうが大切です。
会計をマスターすると、決算書のどの数字が重要で、そこからどうイメージを膨らませればいいのか分かります。前年の特別損失や営業利益の伸びから、「日産は大規模なリストラで負の遺産を整理し、経営成績を急回復させた」という、数字の裏側にある実際のビジネスの状況が読み取れるのです。これが、決算書の数字の裏側が見えてくるということです。

——日産のV字回復に関しては、ゴーンさんの経営改善への取組みについても書かれていますね。

望月 はい。「会計はことば」とも言われます。決算書の数字は必然的に決まるものではなく、経営者の考え方やスタンスに大きく左右されるものなんです。例えば日産のV字回復のように、経営者が負の遺産を整理して経営体質を強化していかうとすれば、そこから数年の利益の出方は大きく変わります。ですから、決算書の数字と実際のビジネスの関係を語るうえで、経営者の考え方やスタンスは非常に重要となります。

実を言うと、本書を執筆したのは、ニュースの裏にあるそうした経営者の考え方やスタンス、さら

に言えば、その思いや努力を伝えたいからでもあります。ニュースを見る際にはそうした経営者の姿にも注目してほしいのです。

例えば、本書では2006年中間決算で日産の営業利益が減益となった際のゴーン社長の決算発表について取り上げています。ゴーンさんの言葉は、減益となった理由をしっかりと分析し、会社の現状をありのまま伝えようという誠実さが伝わってくるものでした。

このときの報道を見ると、それまでの「日産の未来は明るい」といった論調が一転して「日産の成長は難しい」というものになりました。しかし、数字だけではなくゴーンさんのビジネスに対する姿勢を見ていると、そんな単純に

意見を変えて良いのかと感じました。すぐに「先行きは暗い」と切り捨てないで、経営者の姿やビジネスの実態をしっかりと見て、応援してほしいという思いが、多くの経営者と一緒に仕事をしてきた人間としてあつたんです。

——最後に読者にメッセージを。
望月 会計は、まずその全体像をつかむことで習得も早くなります。本書はこれから会計をマスターしようという方にとって、とても便利な本だと思います。もちろん、すでに会計をマスターされている方にも面白く読んでいただけますし、会計の仕組みについての整理をするいい機会になるのではないでしょうか。

(聞き手・構成 本誌・伊達準)

新刊ガイド

「管理職」のための七つの道具術

金津健治著
プレジデント社
1400円(税別)

本書は、目に見えにくい組織のマネジメントを、ワークシート等の道具を使って目に見えるようにすることで円滑に進める手順を紹介。組織の機能的運営やパワーアップの参考になる。

自治体破産[増補改訂版]～再生の鍵は何か

白川一郎著
NHKブックス
1070円(税別)

夕張市の破綻問題は日本の地方自治体に共通する問題と言っても過言ではないと主張する著者が、夕張市破綻の真相に迫り、日本の地方自治体の財政規律を失わせる「仕組み」について指摘する。

社員をサーフィンに行かせよう～パタゴニア創業者の経営論

イヴォン・シュイナード著
森 撰訳
東洋経済新報社
1800円(税別)

環境問題への取り組みや、組織のあり方、社員との関係などにおいて、これまでの常識を覆す経営を展開する米国のアウトドア衣料メーカー「パタゴニア」。その創業者が自らの経営哲学を語る。